

愛知県環境審議会総合政策部会会議録

1 日時 平成24年12月18日(火) 午前10時00分から午前11時35分まで

2 場所 愛知県自治センター5階 研修室

3 議事

(1) 部会長代理の指名について

(2) 環境基本計画の改定について

4 出席者

委員9名、専門委員2名、説明のために出席した職員18名

5 傍聴人 4名

6 会議内容

- ・ 議事録の署名について、青木部会長が井村委員と織田委員を指名した。

(1) 部会長代理の指名について

- ・ 青木部会長が吉久委員を部会長代理に指名した。

(2) 環境基本計画の改定について

- ・ 資料1から4について事務局から説明があった。

<主な質疑応答>

【竹内専門委員】

資料1の7ページの安全・安心の分野だが、有害物質の移動の規制がある、また、放射能も同様であるが、私たちの暮らしに有害と思われることに関して、今後とも要注意だと思う。放射能の測定も県内数か所で行っているとのことだが、国の基準が緩いと思うので、今後、子供の世代まで安心して暮らしていけるのか危惧している。

各目標値の達成状況が厳しいようだが、抜本的な対策が必要ではないかと、計画を策定するのは良いが実効性が問われていると思う。

レジ袋の取り組みにしても10年くらい訴え続けたが、有料化になったとたんにマイバックを持参するようになったことから、ちょっとしたきっかけで達成率はあがるのではないかと。そういうところに工夫がいると思うし、どうすべきかを具体的に審議していくべきだと思う。

【事務局】

たとえば地球温暖化対策は、意欲的な数値を掲げてその目標の達成に向けて取り組んできたという面もあるが、この2月には新たな戦略を策定し、この新戦略に基づいて主に一般県民向けの対策に重点を置いて実施していくものとしている。

【事務局】

第三次の計画では各施策の柱ごとに細かい目標値を立てたが、第4次で目標値をどうしていくのかについてもご審議いただきたいと考えており、これまでどおりとするのか、愛知県の環境の姿がどうあるべきといったものを示すこととするのかなどについて、ご議論いただきたい。

【井村委員】

地球温暖化にしても資源循環にしても、もはや環境面だけ考えては成り立たない状況であると思う。人口なんかも今後は減少していくということは、負荷も少なくなるということで、そうした社会状況の変遷、バックグラウンドなどもよく認識して計画を策定すべき。いろいろな県の計画をみても国そうろうのものも多くある。エネルギーに関しては国際的には京都議定書の行方、国の方針などにもよるが、県によっては急激に過疎が進むところもあるなかで、愛知県はまだまだ活力があるので、そうした固有の事情も押さえるべきである。災害に関しても廃棄物などの課題はあるが、災害の発生そのものと環境とのつながりを意識していくべきであると思う。

【事務局】

本日は、第1回の部会ということで、現計画の実施状況などをお示ししたが、今後にご指摘いただいた点などを踏まえ、目標年度、目標値のあり方などについて国の動

向などもみながらご議論いただければと考えている。

【大東委員】

資源循環の数値目標の達成状況において、効果的・先導的循環ビジネスの発掘・創出の数値が近年頭打ちとなっているが、増えない理由を総括し、そこを押さえておかないと次に続かない。循環ビジネスを活性化していくために何が足りないかなどの分析はいかがか。

【事務局】

この事業は、ある意味動脈産業に対する静脈産業であり、一つにはこの動脈産業と静脈産業の連関がうまくいっていない点、さらには技術面とコスト面とが折り合わないところもあり、こうした点をどう折り合わせるかといったところについて産業界や研究者と相談をしながら目標値をクリアできるよう進めている。

【森田委員】

安全・安心分野の「貨物自動車等の車種規制非適合車の使用抑制等に関する要綱」の適用範囲が名古屋市、岡崎市と県と読み取れるが、大動脈の道路沿線の他都市も含めないと実効性が挙げられないのでは。他の都市はこの要綱に入れているのか。

【事務局】

この要綱では、市町村合併前の 61 市町村が対象となっており、愛知県の大半の地域は対象となっていて県が対応しているが、名古屋市と岡崎市の区域はそれぞれの市で対応していただくというものであるので、その他の市町村、例えば豊田市などが入っていないということではない。

【吉久委員】

温室効果ガス排出量は過去 2 年間について集計中となっているが、震災とか原発事故とかがあり、最新の動向が気になる。火力発電所の稼働、自動車の保有台数が伸びていないなど、様々な要因もあるので最新データが重要と思うが、データが示せない状況を教えてほしい。

【事務局】

温室効果ガスの排出量は、様々な統計データなどを使って推計している関係で、21年度も最近になって数値が出た状況であり、努力はしているが精一杯の状況である。

【竹内委員】

参考資料2に示されている計画の方向性の案の中で、国の環境基本計画と同様に脱温暖化、資源循環、自然共生の各分野を統合的に達成することを目指すとしているが、各個別計画でこのような社会を目指すこととしているので、改めて環境基本計画でおさらいするよりも、統合のために何をしていくのか、どういう制度が障害になっているのか、統合のためにはどういった産業を育成していく必要があるのか、今後の基本計画では、統合のための方策を重点的に示していくべきではないか。

今の話と矛盾するかもしれないが、自治体におけるエネルギー政策については、今まで日本では全くなかったが、今後は自立分散型エネルギーの導入や自立分散型システムを進めなければいけないので、都道府県レベルあるいはもっと広域かもしれないが、エネルギー政策が必要になってくる。この4月に知事政策局にエネルギー担当が設置されたようだが、環境基本計画の中で愛知県としてのエネルギー政策を明らかにしたら良いのではないか。

【事務局】

難しい問題であるが、前向きに検討していく方向で検討していきたい。委員の皆様からも知恵をいただきたい。

【河野専門委員】

数値目標を単に立てるだけでなく、立てた数値目標はどうだったのか、実施状況はどうだったのか、数字だけではなくどういう政策を打って結果がどうだったかを検証しないと次につながらない。

「脱温暖化」の「脱」はあまり良い言葉ではない。脱温暖化は無理であるので、できるだけ温暖化を抑制していく観点が必要である。温室効果ガスの排出量が絶対値で

示されているが、日本はGDPあたりのCO2排出量は世界一小さいものとなっている。経済活動がどんどん下がっていけば自然と排出量は減少していく。それで良いのか。愛知県内で経済を確保しながら、CO2の排出を抑制するためには原単位を下げしていく必要がある。原単位を良くする活動が本来の企業のやるべきことである。

生物多様性について、保護しなければいけない生物もあるが、シカやクマなど被害を与えている生物もいるので、むやみな保護ではなく、適正な保護の仕方、共存の仕方があるのではないかと。

環境基本計画は個別計画の上に立つものであるなので包括的な記載をした方がよい。

【事務局】

第3次計画では目標値を達成するため、200以上の施策を掲げている。脱温暖化については、第3次計画策定時には「温暖化社会から脱却する社会を構築する」ことを目指すこととしていることから、脱温暖化という言葉を用いた。

また、生物多様性についてはトレードオフ、各分野の統合といったことと関係してくると思うので今後、議論をお願いしたい。

【織田委員】

野生生物については保護も大事だが、愛知県では4種の獣の生息数をどのように抑制するか検討している。ニホンジカ、イノシシは非常に増えている。都市の人に、獣害予防のための保護柵が張り巡らされている農村の状況を見てもらいたい。都市にいるとそうした状況は全くわからない。自然環境の問題も知らなければいけない。環境基本計画ではこうした問題も進化させて記載していただきたい。

【浜口委員】

資料1の2ページで、家庭における温室効果ガスの削減率の目標が46%と他の部門に比べて高くなっている意図は何か。

【事務局】

産業部門は対策が進んでおり削減がこれ以上難しいため、目標達成には業務部門や

家庭部門で吸収する必要があり、こうした削減率を設定した。技術的には家庭用電気製品などは急速に改善しており、頑張れば達成できるのではないかとこのことで掲げている。

【浜口委員】

個人の活動の中で、環境負荷を減らしていくためには、環境に配慮した行動が価値のあることと思えるような社会づくりが必要である。第3次計画で「環境問題への対応を愛知の活性化につなげる」とあるが、地域で活動していくことが自分たちの価値につながるにより達成できれば良いと思っている。

目標値については新しい評価方法の開発が必要である。数値目標、例えば参加人数などはわかりやすいが、数字では見えない部分をどう評価するかが重要ではないか。

【田中委員】

環境への姿勢は、読み書き・そろばんと同じで、幼い時から身につける事柄であろう。環境基本計画で教育の分野まで踏み込むことができれば、将来における各分野の実質的な統合にもなるかもしれないし、より深いものになるのではないかとと思われる。難しいかもしれないができる限りの対応をお願いしたい。

【森田委員】

アンケートの結果では、地球環境問題への関心が多くなっているが、安全・安心の分野も合算すると相当の方が関心をもっている。身近なところで考えないといけないこともあるので、アンケート結果をよく見ていく必要がある。

「参加・協働」という言葉があるが、「参加」は他人のお膳立てがあって行動するような感じになるので、企画の段階から参加していくという意味で「参画」にしたい。

以 上